

「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書（神奈川県）」の作成のポイント

平成 26 年 4 月 23 日
東海旅客鉄道株式会社

1. 今後も事業の各場面で住民の方々へご説明し、必要な情報を公表します

- ・ 環境影響評価書の作成に当たっては、神奈川県知事からの意見を真摯に受け止め、事業者として環境に配慮した事業としていくよう内容を更に検証し、多岐にわたって内容を充実するよう努め、今般、取りまとめました。
- ・ これまでも、環境影響評価準備書に関する説明会を神奈川県内で 24 回開催し約 3,600 人にお越しいただいたほか、ホームページ等で情報を公開することにより多くの方からご意見等をいただき、環境保全事務所における対応とともに、住民の方にご理解をいただけるよう、様々な取り組みで努めてきているところですが、今後は、事業説明会、工事説明会及び用地説明の場等、事業の各場面で住民の方々にご説明し、必要な情報を公表するなど、ご理解を得られるよう、引き続き、努めていくことを記載しています。

2. 車両基地計画をより分かりやすく例示し、検討項目を追加記載しました

- ・ 関東車両基地については、その位置の計画に当たり、鳥屋小学校・中学校に移転が生じないよう計画していますが、評価書ではより詳しい内容として、現段階で計画している車両基地の設備配置について、予測の前提とした大まかな配置計画を記載しました。
- ・ また、地域における一体性について、幾つかの観点から検討した内容を評価書に加筆記載しました。豊かな里山である鳥屋地区において、生物の多様性を確保するよう、知事意見を受け、一層環境の保全に配慮することとします。

3. 発生土置き場等計画時、調査・影響検討等を実施する旨を具体的に記述しました

- ・ 具体的な位置・規模等の計画を明らかにすることが困難な付帯施設（発生土置き場等）については、新たな発生土置き場等を当社が計画する場合、環境保全のための調査及び影響検討を行っていくことについて新たに評価書に詳しく記載しました。どのような調査・影響検討を行っていくのか、具体的に記述してあります。

4. 都市部非常口の環境影響予測について要素毎に分かりやすく記載しました

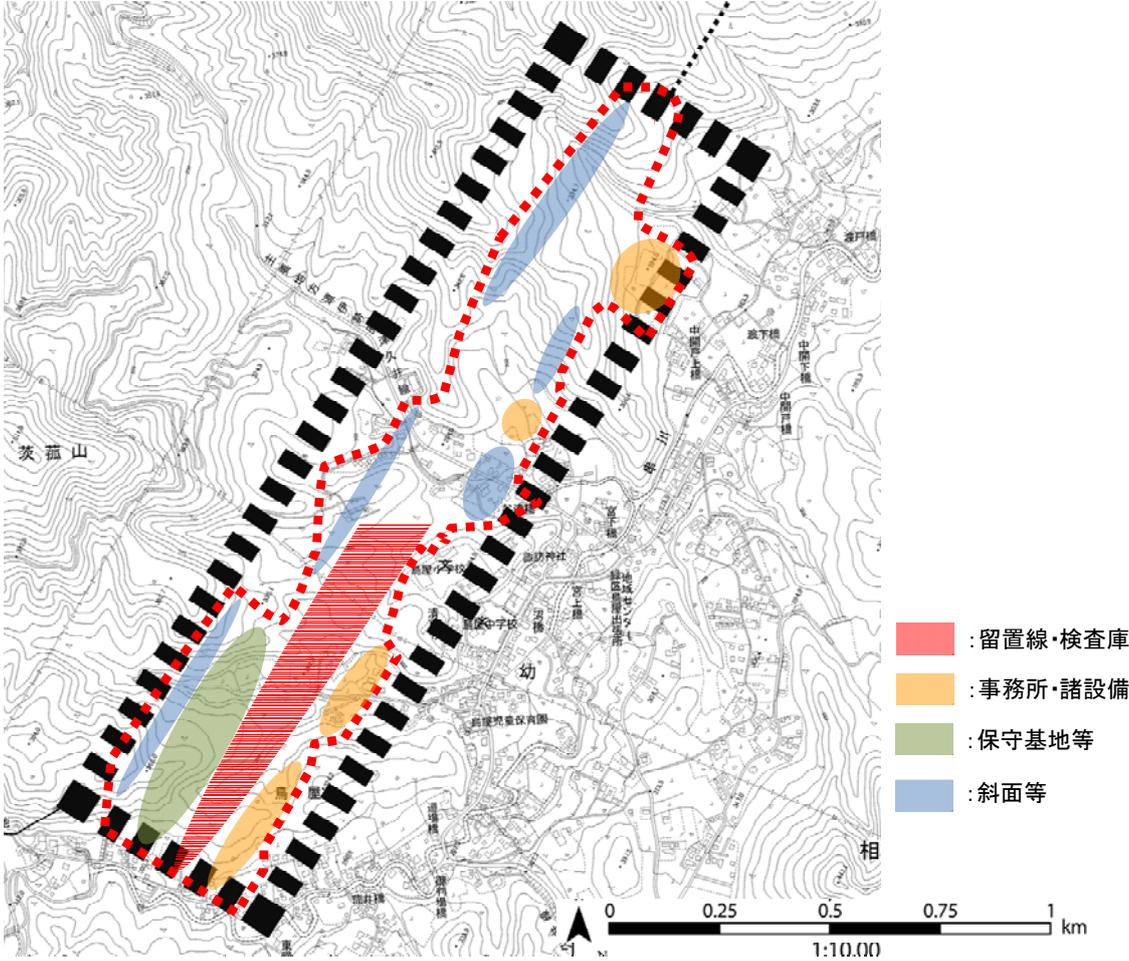
- ・ 都市部非常口の設置計画箇所について予測の前提となる配置・形状を想定し、大気質・騒音・振動など生活環境要素毎の影響予測を等濃度線図などで分かりやすく表現しました。今後、工事用車両の走行によるものも含め、モニタリング等で工事の影響程度の確認を行っていくこととしており、その内容を具体的に記述してあります。

5. 相模川橋梁の景観検討過程をより詳しく記載しました

- ・ 相模川に架ける橋梁のデザイン・景観について様々な観点から検討を行ってきた過程を、より詳しく、評価書に記載しました。遠景、近景からの視点による検討、周辺（特に左岸緑地）との景観関係性に着目した検討内容などを盛り込んでいます。

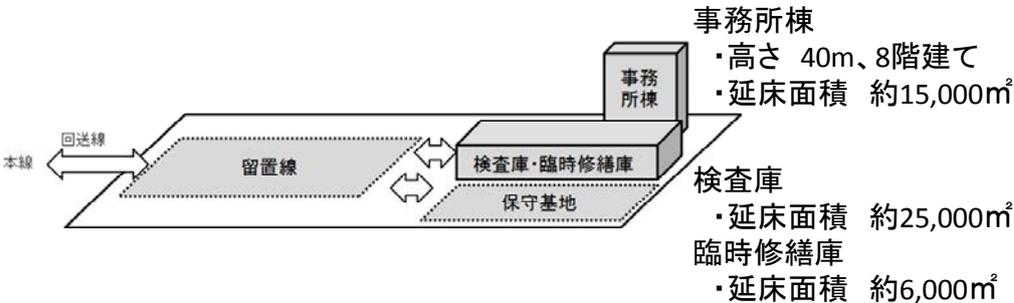
※詳細については、別紙を参照してください。

2. 車両基地計画をより分かりやすく例示しました



※環境影響評価を行う際に前提とした計画であり、最終形とは異なる可能性がある。

図 4-1-3 車両基地の設備配置の概要

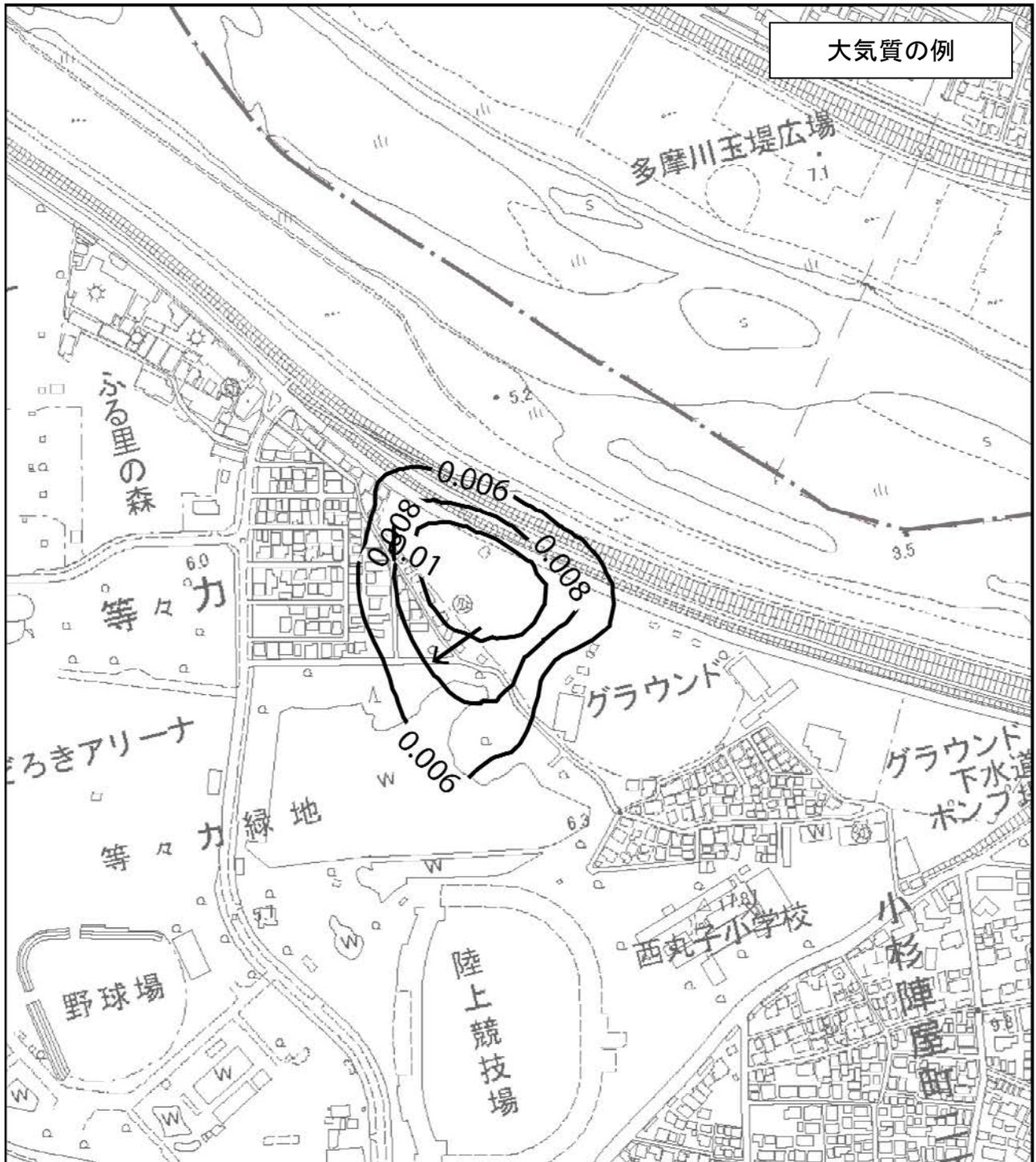


※環境影響評価を行う際に前提とした計画であり、最終形とは異なる可能性がある。

図 4-1-4 車両基地の建物の概要

(評価書【神奈川県】資料編 事 4-1-2 ページ)

4. 都市部非常口の環境影響予測について分かりやすく記載しました



●予測地点01 川崎市中原区等々力 (NO₂)

凡例

—— 等濃度線 (単位 : ppm)

← 最大着地濃度地点の方向

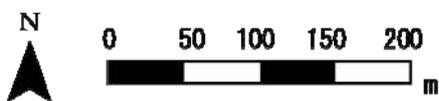


図 1-4-1-1 (1) 建設機械の稼働による
大気質の等濃度線図

(評価書【神奈川県】資料編 環 1-4-2 ページ)

5. 相模川橋梁について周辺との景観関係性に着目した検討内容を記載しました

□相模川散策路[諏訪森中州]からの景観

相模川散策路[諏訪森中州]からの眺望については、図 22-2-3-1、図 22-2-3-2 に示すとおり、新小倉橋が視認できなくなるものの旧小倉橋、相模川左岸の近郊緑地保全地区でもある河岸段丘の斜面緑地が視認でき、山の稜線を遮ることもないことから、調和のとれた、新たな景観ができると予測する。

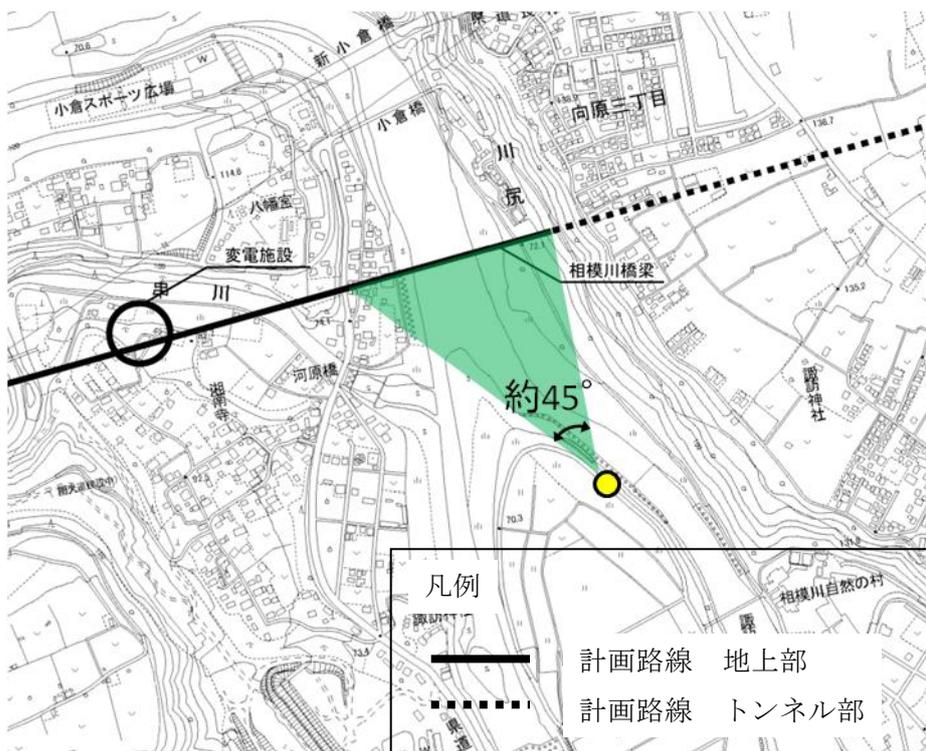


図 22-2-3-1 影響範囲（相模川散策路〔諏訪森中州〕）



図 22-2-3-2 相模川散策路〔諏訪森中州〕からの眺望(イメージ)

(評価書【神奈川県】資料編 環 22-2-3 ページ)